

SDGs 未来都市にふさわしい環境政策の推進について

環境局所管計画 令和4年度報告

- I 北九州市環境基本計画の進捗報告について
(総務課) 2 P
- II 北九州市地球温暖化対策実行計画の進捗報告について
(グリーン成長推進課) 27 P
- III 第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画の進捗報告について
(循環社会推進課) 45 P
- IV 第2次北九州市生物多様性戦略の進捗報告について
(環境監視課) 70 P

北九州市環境基本計画 進捗報告について (令和4年度実績)

【報告事項】

- 政策目標 1 市民環境力の更なる発展と
すべての市民に支えられた「北九州環境ブランド」の確立
- 政策目標 4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと
環境・経済・社会の統合的向上

【各分野別計画による報告】

- 政策目標 2 2050年の超低炭素社会とその先にある脱炭素社会の実現
- 政策目標 3 世界をリードする循環システムの構築

環境局総務課

1

1 総合評価

○政策目標1及び4について、北九州市行政評価を活用して、主要事業を

- ・大変順調 (成果指標達成率 120%以上)
- ・順調 (// 60%以上～120%未満)
- ・やや遅れ (// 40%以上～60%未満)
- ・遅れ (// 40%未満)

の4段階で評価。

○評価の結果、「大変順調」は11.6%、「順調」は86.0%、「やや遅れ」が3.0%。

政策目標	事業数	大変順調	順調	やや遅れ
1 市民環境力の更なる発展と すべての市民に支えられた 「北九州環境ブランド」の確立	36	3 (8.3%)	32 (88.9%)	1 (2.8%)
4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと 環境・経済・社会の統合的向上	20	5 (25.0%)	15 (75.0%)	0 (0.0%)
合計	56	8 (14.3%)	47 (83.9%)	1 (1.8%)

※やや遅れは「長野緑地を利用した農業体験教室」(建設局)で、コロナ禍後も参加者数(985人)が目標の半分程度にとどまったもの。

2

○タカミヤ環境ミュージアムの管理運営

本市の環境学習・環境情報・環境活動の総合拠点であるタカミヤ環境ミュージアムにおいて、公害克服の歴史や身近なエコライフ、地球環境問題などを分かりやすく紹介。令和4年度は、地球温暖化やカーボンニュートラルをテーマに、一部展示をリニューアル。利用者は、コロナ後回復傾向にあり、目標130,000人に対し約75,000人まで回復。

○北九州エコライフステージの開催

市民団体や事業者などで構成する実行委員会を中心にして、エコライフの浸透を目指し、様々な環境活動の実践者の発表の場であるエコライフステージの他、通年で様々な環境活動を実施。

<エコライフステージ2022>

- ・開催日 令和4年11月19日(土)～20日(日)
- ・会場 勝山公園大芝生広場
- ・テーマ みんなで一緒につくろうよ。
脱炭素社会・私たちの北九州。

<地域の環境活動支援事業>

- ・通年事業(まち美化、環境学習、企業の環境イベント等)
- ・会場 市内一円

<参加者数>

- ・エコライフステージ、地域の環境活動で約90万9千人



3

○北九州市環境首都検定の実施

環境学習の機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げることなどを目的に、平成20年度から「北九州市環境首都検定」を実施。

令和3年度から、ジュニア編、中高生編、一般編、上級編の全区分でWEB受検を開始。令和4年度は、目標5,500人に対し5,751名が受検、2,533名が合格。

- ・開催日 令和4年12月11日(日)10:00～11:00
- ・会場 西日本総合展示場、市民センター(志井、島郷)、環境ミュージアム
- ・受検者数等

	受検者数	5,751名	合格者	2,533名
【内訳】ジュニア編	3,537名		1,838名	
中高生編	1,303名		192名	
一般編	830名		468名	
上級編	81名		35名	



4

政策目標 1

市民環境力の更なる発展とすべての市民に支えられた「北九州環境ブランド」の確立

○アジアの環境人材育成拠点形成事業

アジア地域の国・都市が自らの力で環境改善の取組を進めることができるよう、JICAや関係機関と連携し、国際環境研修を実施。

令和4年度は、目標460人に対し321人に研修実施。

○Horasisアジアミーティングの開催

スイスのチューリッヒに本拠を置く世界的なシンクタンクであるHorasisが開催するHorasisアジアミーティングを開催。

- ・開催日 令和4年11月20日(日)～22日(火)
- ・会場 北九州国際会議場他
- ・テーマ アジアにおける地域間協力、効果的な投資、持続可能な成長などアジアの将来像
- ・参加者 企業経営者や投資家など、23か国・地域から201名



5

政策目標 4

将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上

○大気・水・土壌環境等の保全

環境法令に基づき、大気汚染や水質汚濁、騒音、振動などの監視測定を実施。

○工場・事業場監視事業

市内の工場・事業場に対し、環境法令に基づき、立入検査及び排ガス・排水中の規制項目に関する測定を実施。

市民からの公害関係の苦情・要望を受け、発生源に対する指導を実施。

令和4年度の公害に関する苦情・要望件数は222件であり、目標とする300件以下を下回って推移。

○橋梁・トンネルの長寿命化

市内の橋梁、トンネルの老朽化に対し予防保全の観点から計画的に長寿命化を実施。

6

北九州市環境基本計画 進捗報告
(令和4年度実績)

北九州市環境局

政策目標1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					R3年度	R4年度		R4年度	評価の理由			
					指標名等	現状値 (基準値)		R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価		
1	⑦ ⑪ ⑫ ⑮ ⑰	地球温暖化対策推進事業	グリーン成長推進課	令和3年8月に改定した「北九州市地球温暖化対策実行計画」に掲げた目標の着実な達成に向け、市民、事業者、行政がこれまで以上に計画的かつ効果的に取組を推進する必要があるため、各種調査及び啓発事業の強化等を行う。	温室効果ガス排出量の削減(万t)	温室効果ガス排出量 1,859万 ↑ (2013年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	2030年度温室効果ガス排出量2013年度比47%減	9,851	7,846	4,038	順調	温室効果ガス排出量については、毎年減少傾向を維持している。 また、出前講演の参加者数(累計)が目標(5,250人)を達成するなど、市民に対し、年間を通じた啓発事業を実施した。 以上を総合して、「順調」と判断。
2	⑦ ⑪ ⑫ ⑮ ⑰	「脱炭素ライフスタイル」転換推進事業	グリーン成長推進課	令和3年8月に改定した「北九州市地球温暖化対策実行計画」に基づき、脱炭素社会の実現に向けて市民・企業向けの情報プラットフォームを整備し、「脱炭素社会」のイメージと方法・効果の共有を図るとともに、取組事例や効果を可視化し、家庭・企業の脱炭素型ライフスタイルへの転換を進めるもの。	温室効果ガス排出量の削減(万t)	温室効果ガス排出量 1,859万 ↑ (2013年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	2030年度温室効果ガス排出量2013年度比47%減	6,612	3,500	532	順調	温室効果ガス排出量については、毎年減少傾向を維持している。 また、ポータルサイトを通じて情報発信を強化した結果、アクセス数(累計)が目標(15,000件)を達成した。 以上を総合して、「順調」と判断。
3	⑮	広げよう食品ロス・生ごみ削減の環づくり事業	循環社会推進課	食品ロス削減の取組「残しま宣言」運動の普及・啓発や、生ごみリサイクル講座等の実施によって、生ごみの減量化・資源化を推進する。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g (R1年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 462 g	達成率 —	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	440g以下 (R7年度)	7,047	7,800	6,354	順調	食品ロス削減の取組「残しま宣言」運動を継続して実施し、食品ロス削減の取組実施率は、中期目標の概ね8割程度達成しており、市民の環境意識向上や、生ごみの資源化・減量化の促進に貢献していると考えられることから、「順調」と判断。
			市民アンケート調査における3R活動の実施率	86.9% (H28年度)	目標 86.9 %	実績 85.7 %	達成率 98.6 %				86.9% (毎年度)						
			市民アンケート調査における食品ロス削減の取組実施率	58.3% (R1年度)	目標 —	実績 61.6 %	達成率 —	単年度目標設定なし			80%以上 (R12年度)						

政策目標1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		R4年度	評価の理由
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価	
4	12	3R活動推進事業	循環社会推進課	事業所に対する一般廃棄物の減量化等の推進及び3R活動を行う団体の表彰等により、3R活動の推進を図る。	一般廃棄物のリサイクル率	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	30%以上 (R7年度)	1,188	609	1,111	順調	事業所へのごみ減量化に関する講習会の実施や、ごみ分別・減量化意識を高める取組を行った。 3R活動実施率は、令和3年度に比べ上昇しており、3R意識の向上が進んでいると考えられるため、「順調」と判断。
						実績	27.9 %	26.6 %						
						達成率	—	—						
					市民アンケート調査における3R活動の実施率	目標	86.9 %	86.9 %	86.9% (毎年度)					
						実績	85.7 %	87.6 %						
						達成率	98.6 %	100.8 %						
5	12	古紙・古着リサイクル推進事業	循環社会推進課	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、古紙・古着回収奨励金の交付等を通じ、市民団体による集団資源（古紙・古着）回収活動を支援する。	市民1人あたりの年間古紙回収量	目標	単年度目標設定なし	第2期循環社会計画に準拠	147,183	208,944	135,349	順調	近年、古紙・古着の集団資源回収量は若干減少気味であるが、古紙については紙の使用量の減少も影響していると考えられる。 まちづくり協議会の参加率は100%を維持しており、地域の活動は継続されていることから、「順調」と判断。	
						実績	30.4 kg							
						達成率	—							
					古紙回収に取り組むまちづくり協議会数	目標	137 団体	137 団体						全137団体の参加 (毎年度)
						実績	137 団体	137 団体						
						達成率	100.0 %	100.0 %						
					一般廃棄物のリサイクル率	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	30%以上 (R7年度)					
						実績	27.9 %	26.6 %						
						達成率	—	—						

政策目標1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		R4年度	評価の理由	
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)
6	⑨ ⑫ ⑬ ⑭ ⑰	北九州市プラスチックスマート推進事業	循環社会推進課	国の動向と歩調を合わせながら、これまでの取組に加え、更なるプラスチックごみの資源循環に向けた施策を推進する。	プラスチック製容器包装の分別協力率	44.4% (R1年度)	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	60%以上 (R12年度)	30,332	38,000	23,513	順調	令和4年4月施行のプラスチック資源化促進法への対応に向けて、2度目のプラスチック一括回収の実証事業を実施し、市内全域で事業開始に向けて、方針決定などに取り組んだ。 また、プラスチックごみ対策専用ウェブサイトのレイアウト改善や、講演・イベントでの市民啓発などを強化した。 以上を総合して、「順調」と判断。
						実績	45.6 %	44.5 %							
						達成率	—	—							
					市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g (R1年度)	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	440g以下 (R7年度)					
					実績	462 g	452 g								
					達成率	—	—								
7	⑫	地域特性型（メニュー選択方式）市民環境活動推進事業	循環社会推進課	地域団体等が自主的に活動する事業（剪定枝リサイクル等）を支援することにより、地域における自主的な環境活動の拡大と地域コミュニティ活動の活性化を図る。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g (R1年度)	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	440g以下 (R7年度)	8,238	9,405	9,715	順調	市民1人一日あたりの家庭ごみ量は集計中であるが、減少傾向である。 また、3R活動の実施率も高い水準を維持しているなど、環境意識の醸成及び地域コミュニティの活性化につながっていると考えられる。 以上を総合して、「順調」と判断。
						実績	462 g	452 g							
						達成率	—	—							
					市民アンケート調査における3R活動の実施率	86.9% (H28年度)	目標	86.9 %	86.9 %	86.9% (毎年度)					
					実績	85.7 %	87.6 %								
					達成率	98.6 %	100.8 %								

政策目標1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R3年度 決算額 （千円）	R4年度		R4年度 事業 評価	評価の理由		
					指標名等	現状値 （基準値）	R3年度			R4年度				中期 目標	予算額 （千円）
8	⑪ ⑫ ⑭ ⑮	まち美化等啓 発事業	業務 課	北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例（まち美化条例）に基づき、ポイ捨てのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民や企業、ボランティア団体等と連携し、まち美化事業を実施する。 市民の環境美化に対する関心及びモラル・マナーの向上を図り、「世界の環境首都」に相応しい清潔で美しいまちづくりを推進する。	まち美化ボランティア清掃参加者数（単年度）	131,314人 （H28年度）	目標	138,000人	138,000人	138,000人 （毎年度）	3,304	3,578	3,145	順調	新型コロナウイルス感染症への社会の対応が変化中、ボランティア清掃参加者数は戻りつつある。一方で、春の“クリーン北九州”まち美化キャンペーン事業のごみゼロ清掃において雨天中止の会場があった影響により、「まち美化ボランティア清掃参加者数」の目標達成率は55.5%にとどまった。 他方、「アンケート調査における地域でのまち美化清掃実行の割合」は、多くの市民がまち美化ボランティア清掃に参加するなど、一定の成果を収めている。以上により、各成果指標の目標達成率の平均が60%以上となったため、「順調」と判断。
							実績	64,055人	76,620人						
							達成率	46.4%	55.5%						
					アンケート調査における地域でのまち美化清掃実行の割合	47% （H28年度）	目標	60%	60%	60% （毎年度）					
							実績	41.6%	41.8%						
							達成率	69.3%	69.7%						
9	⑪	ボランティアネットワークの推進（道路サポーター）	道路計画課	市が維持及び管理する道路において、道路清掃・美化などのボランティア活動を行う地域の団体を対象に、清掃用具や花苗の支給などにより支援する。	道路サポーター加入団体数	—	目標	240団体	245団体	250団体 （R5年度）	18,613	17,046	16,613	順調	令和4年度の実績は、254団体であり、中期目標で設定した250団体を上回っているため、「順調」と判断。
							実績	237団体	254団体						
							達成率	98.8%	103.7%						
10	⑪	ボランティアネットワークの推進（公園愛護会）	公園管理課	10名程度の地域住民で組織されるボランティア団体で、公園の美化活動・公園施設の点検や禁止行為の連絡・公園利用者のマナーづくり・市民花壇づくりなどを行い、活動面積に応じて活動費を助成している。	公園愛護会の結成数	—	目標	1,160団体	1,160団体	1,160団体 （毎年度）	43,451	42,616	42,627	順調	コロナ禍や高齢化により解散する団体はあるものの、全体としては目標の団体数を概ね達成しており、「順調」と判断。
							実績	1,150団体	1,121団体						
							達成率	99.1%	96.6%						

政策目標1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度 決算額 （千円）	R4年度		R4年度 事業 評価	評価の理由		
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	予算額 （千円）			決算額 （千円）	
11	①	ボランティア ネットワーク の推進（河川 愛護団体）	水環 境課	地域の住民で構成する河川愛護 団体に清掃道具購入の費用等と なる補助金を交付することにより、 美化活動を広げる。 また、美化活動に参加すること により、地域の河川を身近に感 じ、自分たちの川として愛着を持 つような啓発活動へとつなげる。	河川愛護団体数	—	目標 73 団体	実績 61 団体	達成率 83.6 %	67 団体	67団体 (R5年 度)	2,122	2,634	2,100	順調	概ね目標に近い団体数が活動してお り、「順調」と判断。
12	④ ⑰	NPO・市民活動 促進事業	市民 活動 推進 課	市民活動の促進に加え、NPOと行 政の協働を推進するため、活動や 協働等に関する相談・助言、情報 提供、研修・啓発等を実施する。	サポートセンター利 用者数	29,293 人 (R1年 度)	目標 20,000 人	実績 8,256 人	達成率 41.3 %	20,000 人 (毎年 度)	16,939	17,434	16,524	順調	令和3年度以前に、緊急事態宣言の発 令に伴う臨時休館等により、大きく減少 したサポートセンターの利用者数は回復 基調にあり、新規設立NPO法人数も概ね 目標を達成した。以上のことから、「順 調」と判断。 講座については、引き続きオンライン 参加も可能なハイブリッド型として講座 実施の維持に努めた。	
					新規設立NPO法人数	17法人 (R1年 度)	目標 15 法人	実績 14 法人	達成率 93.3 %	15法人 (毎年 度)						73.3 %
13	④	NPO公益活動支 援事業	市民 活動 推進 課	市民活動の更なる促進を支援す るため、NPO等が専門性を発揮して 行う活動に対し、事業費の一部を 補助する。	補助交付事業件数 (累計)	109件 (R1年 度)	目標 130 件	実績 131 件	達成率 100.8 %	140 件	150件 (R5年 度)	2,389	2,694	2,300	順調	補助採択事業の事例紹介については、 中間報告会を開催し事業周知に努めた。 また、補助交付事業件数は目標を概ね 達成したため、「順調」と判断。
					成果発表会の参加人 数（累計）	431人 (R1年 度)	目標 580 人	実績 475 人	達成率 81.9 %	630 人	680人 (R5年 度)					

政策目標1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		R4年度 事業 評価	評価の理由	
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)			予算額 (千円)
14	⑩	多様な主体による市民活動の輪づくり事業	市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	4件 (R1年度)	目標 5 件	実績 15 件	31 件	5件 (毎年度)	3,221	2,566	2,095	大変順調	多様な団体間のネットワークを構築し、協働件数が目標を大幅に上回っているため、「大変順調」と判断。
15	④ ⑩ ⑰	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。 また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数（累計）	2,146人 (R1年度)	目標 2,250 人	実績 2,476 人	2,540 人	2,750人 (R5年度)	816	1,206	1,029	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため、「順調」と判断。
					運営改善団体数（累計）	3団体 (R1年度)	目標 9 団体	実績 8 団体	10 団体	15団体 (R5年度)					
16	② ④ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	生物多様性戦略推進事業	環境監視課	都市と自然との共生「豊かな自然の恵みを活用し 自然と共生するまち」を基本理念に、生物多様性を保全し、将来にわたって持続可能な形で利用が可能な都市づくりを目指す。	環境首都100万本植樹プロジェクト推進（累計）	657,903本 (H27年度)	目標 904,000 本	実績 750,223 本	784,926 本	累計 100万本 植樹 (R6年度)	14,457	14,013	13,717	順調	自然ネットだより等を活用し、自然環境保全活動の周知を行った結果、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、多くの人が活動に参加した。 また、環境首都100万本植樹プロジェクトによる植樹本数（累計）について、目標には届かなかったものの、プロジェクト全体としては順調に推移している。以上のことから、「順調」と判断。
					達成率	83.0 %	83.8 %								
					目標	2,000 人	2,000 人	2,000人 (毎年度)							
					実績	2,500 人	2,000 人								
達成率	125.0 %	100.0 %													

政策目標1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R3年度 決算額 （千円）	R4年度		R4年度 事業 評価	評価の理由
					指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度		中期 目標	予算額 （千円）		
17	④ ⑦	北九州環境みらい学習システム「ドコエコ！」推進事業	環境学習課	本市の恵まれた自然や充実した環境関連施設等と結びつけ、多世代の市民が意欲や能力に応じて、エコツアーなどまち全体で楽しく環境学習が行える仕組みづくりを行う。	アンケート調査における環境活動を行う市民の割合	65.7% (H23年度)	目標 85.0 % 実績 66.9 % 達成率 78.7 %	R3年度 85.0 % R4年度 71.4 % R4年度 84.0 %	95.0% (R12年度)	3,441	3,620	3,343	順調 新型コロナウイルス感染症の影響により、エコツアーは縮小実施したが、参加者数は2,698人と令和3年度より約1,190人増となった。また、SNS等を通じた情報発信も継続的に行うことができ、成果指標の達成率も令和3年度より上昇するなど、一定の効果があったため、「順調」と判断。
18	④ ⑥ ⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務	環境学習課	北九州市の公害克服の歴史を伝えるとともに、世界の環境首都を目指して市民の環境力を高めるための環境学習・環境活動・環境情報の総合拠点である「環境ミュージアム」及び家庭での省エネ型のライフスタイルを提案する「北九州エコハウス」等の管理運営及び様々なイベント、企画等により、環境学習や環境活動の場を提供するもの。	環境学習サポーターによる出張ミュージアム回数 環境ミュージアム利用者数（単年度）	80回 (H26年度) 134,124人 (H26年度)	目標 360 回 実績 249 回 達成率 69.2 %	360 回 291 回 80.8 %	360回 (R5年度)	75,031	77,087	75,383	順調 環境学習サポーターによる出張ミュージアムの回数が令和3年度に比べ増加した。 また、環境ミュージアム開館20周年イベントや、長期休暇を利用したイベントの開催により、利用者数の回復傾向がみられたため、「順調」と判断。
19	④	環境人財育成事業	環境学習課	市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むため、「環境首都検定」をはじめとする施策に取り組む。	北九州市環境首都検定の受検者数	2,424人 (H26年度)	目標 5,500 人 実績 5,502 人 達成率 100.0 %	5,500 人 5,751 人 104.6 %	5,500人 (R5年度)	12,748	13,567	11,762	順調 受検啓発については、会場等の閉館等があり、実施回数が8回と伸びなかったものの、令和3年度に引き続き、全受検区分でWeb受検を実施したことにより、受検者数の目標値を達成したため、「順調」と判断。

政策目標1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		R4年度	評価の理由							
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価					
20	④ ⑰	ESD活動支援事業	環境 学習 課	<p>持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育（ESD）」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進する。</p> <p>具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気付き、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進める。</p>	アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合	—	目標	90.0 %	90.0 %	90.0% (R5年度)	19,174	20,179	19,619	順調	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なイベントや会議が対面では実施できないこともあったが、オンラインでの会議や講演会を積極的に行うなど、事業の円滑な実施に取り組み、「持続可能な社会づくり」を意識する市民の割合増加につなげたため、「順調」と判断。</p>						
						実績	80.2 %	83.4 %													
							達成率	89.1 %	92.7 %												
21	④	長野緑地を利用した農業体験教室	公園 管理 課	<p>計画地内に複数の活動エリアを設け、一年を通してそれぞれのエリアで有機農業栽培管理や花作りを体験する市民参加による農地等の整備、管理等に取り組む。また、子どもたちが自然の中で遊び、学ぶ場を提供したり、収穫物を使用したイベントなど、市民の参加を拡大するイベント等を開催する。</p>	農業体験教室への参加者数	—	目標	2,000 人	2,000 人	2,000人 (毎年度)	2,617	2,750	2,617	やや 遅れ	<p>教室の開催数は、令和3年度同様目標を大きく上回っているが、依然として参加者数は目標の半数弱にとどまっているため、「やや遅れ」と判断。</p>						
							実績	886 人	985 人												
							達成率	44.3 %	49.3 %												
22	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	市民環境力支援事業	環境 学習 課	<p>市民環境力の持続的発展を目指し、環境モデル都市を推進する活動への支援や、市民・NPO、事業者など地域社会を構成する各主体が、情報を共有し、新たな取組を生み出し、発信・啓発する北九州エコライフステージ事業などを行う。</p>	エコライフステージ参加者数（単年度）	142.4万人 (H24年度)	目標	150万人 以上	150万人 以上	150万人 以上 (R5年度)	12,606	12,207	11,690	順調	<p>3年ぶりの対面によるイベントやオンラインイベントを開催したことにより、市内の環境活動を広く情報発信することが出来た。令和4年度のエコライフステージの行事数と参加者数のどちらも、令和3年度の実績を上回ったため、「順調」と判断。</p>						
							実績	30 万人	90.9 万人												
							達成率	20.0 %	60.6 %												

政策目標1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		R4年度	評価の理由	
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)
23	④ ⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境教育推進 事業	教育 情報 化推 進課	「SDGs未来都市」への選定を受け、SDGs環境アクティブ・ラーニングとして小学校4年生を対象とし、環境ミュージアムやエコタウン等関連施設での体験的な学習および環境教育に関する研究を推進することにより、環境教育の充実を目指す。	環境学習の実施校	129校 (R1年度)	目標 実績 達成率	129 校 28 校 21.7 %	129 校 107 校 82.9 %	全小学校 (126校) (R5年度) (休校中の学校を除く)	4,227	14,629	11,887	順調	新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく、希望した大方の小学校は、環境学習に参加することができたため、「順調」と判断。
24	③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑮	アジアの環境 人材育成拠点 形成事業	環境 国際 戦略 課	アジアの途上国やその都市が自らの力で環境改善の取組を進めることができるよう、JICA等国の支援や連携により、実践的な国際環境研修事業を推進していく。 海外からの研修員を受け入れることにより、環境問題解決の一助を担うとともに、現地の環境改善や海外諸都市とのネットワーク構築、ひいては環境国際ビジネスへの事業展開に繋げる。	アジアの環境人材育成のための研修員等の受講者数（単年度）	1,209人 (H26年度)	目標 実績 達成率	460 人 308 人 67.0 %	460 人 321 人 69.8 %	460人 (毎年度)	0	728	0	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により、上半期は全ての研修が遠隔での実施となった。下半期は来日研修を一部再開し、現地見学や体験等、研修内容の充実化を図ったため、「順調」と判断。
25	⑦ ⑨ ⑬	北九州水素プ ロジェクト創 出事業	グ リ ン 成 長 推 進 課	2050年ゼロカーボンシティの実現に向け、水素利活用を促進する「水素供給・利活用拠点都市」の形成を目指し、事業可能性調査や技術開発に対する助成を行うとともに、市内・県内の水素関連技術を保有する企業の調査及びマッチング支援を行うことで、水素関連プロジェクトの早期創出を目指す。	北九州水素タウン来訪者数（単年度） 事業可能性調査実施件数	— —	目標 実績 達成率	500 人 96 人 19.2 %	500人 (R3年度 まで毎 年度) 2 件 2 件 100.0 %	500人 (R3年度 まで毎 年度) 2件 (毎年 度)	10,705	17,500	4,200	順調	関連産業の振興を目指し、水素センサーの開発の実証等、実証・PR拠点化推進に向けた取組を実施し、企業訪問回数が201回と目標（50回）を大きく上回った。また、事業可能性実施調査も予定どおり実施したため、「順調」と判断。

政策目標1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		R4年度	評価の理由	
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価		
26	⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑬	北九州市風力 発電人材育成 事業	再生 可能 エネ ルギー 導入 推進 課	風力発電関連産業の総合拠点として、その機能を十分に発揮するには、人材の「育成」と「確保」が必要である。 このため、「北九州市洋上風力キャンプ」を実施し、市内外の学生等の関心を高め育成を図るとともに、「北九州市風力発電人材育成連絡会」を通じた産学官の連携による人材の確保を目指す。	人材育成に関わる関連企業、教育機関を含めた会議等の実施（累計）	—	目標 9 回	24 回	54回 (R3～R6 年度)	3,049	45,000	32,737	大変 順調	「人材育成に関わる関連企業、教育機関を含めた会議等の実施数」の実績が目標を大きく上回ったため、「大変順調」と判断。	
27	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	脱炭素サプ ライチェーン支 援事業	環境 イノ ベー ション 支 援課	市内企業に対し、脱炭素経営を促すため、実際の成功事例の紹介などを行うセミナーを実施する。また、市内企業の環境に配慮した製品や技術、サービスから「北九州エコプレミアム」を選定し、広くPRすることで、市内環境関連産業の活性化を推進する。	北九州エコプレミアム選定件数（単年度）	9件 累計190 件 (H26年 度)	目標 5 件	4 件	累計240 件 (R6年 度)	—	9,654	8,204	順調	北九州エコプレミアムについて、単年度としては目標を下回っているものの、中期目標の累計240件に向かって、選定件数は着実に増加している。 また、エコタウン事業の投資額については目標を上回る予定である。 以上から、事業全体を総合的に勘案し、「順調」と判断。	
28	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	環境イノ ベー ション 支 援課	環境 イノ ベー ション 支 援課	大学との連携やエコプレミアム認定品を切り口に、学生のうちから環境イノベーションに関係した企業や業務に触れる機会を作り、将来の環境イノベーションを担う人材育成に繋げていく。また、今後の脱炭素化の急激な社会情勢に対応していくためにも、脱炭素経営の認知度向上や意識付けを行い、地元企業の競争力強化に繋げていく。	エコタウン事業による投資額（単年度）	9億円 (H26年 度)	目標 7 億円	12 億円	7億円 (毎年 度)	—	9,654	8,204	順調	北九州エコプレミアムについて、単年度としては目標を下回っているものの、中期目標の累計240件に向かって、選定件数は着実に増加している。 また、支援企業社数について、市内企業の脱炭素サプライチェーン支援事業を実施した結果、事業への応募が予定を僅かに下回ったことにより、目標を達成することができなかったものの、概ね予定していた企業数を支援することができた。 以上から、事業全体を総合的に勘案し、「順調」と判断。	
					支援企業社数（累計）	—	目標 10 社	9 社	30社 (R4～ R6年 度)						
							実績 9 社	90.0 %							
							達成率								

政策目標1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		R4年度	評価の理由	
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価		
29	③ ⑥ ⑪ ⑫	産業廃棄物処 理推進事業	産業 廃棄 物対 策課	産業廃棄物の適正処理・3Rを推 進するため、優れた排出事業者・ 処理業者への認定やインセンティ ブ付与、排出・処理動向や将来見 通しの分析・公表、産業廃棄物 3R・適正処理講習会等を活用した 適正処理・3R情報の普及啓発を実 施する。	優良産廃処理業者の 認定件数（単年度）	4件 (H26年 度)	目標	2 件	2 件	2件 (R1年度 以降毎年 度)	10,957	14,871	9,035	大変 順調	令和3年度から引き続き、会場及び Youtube配信による講習会を実施（受講 者数565名）し、産業廃棄物の適正処 理、3Rの推進について啓発を行った。 また、優良事業者については6社を認定 し、優良産廃処理業者及び排出事業者の 育成に寄与したことから、「大変順調」 と判断。
							実績	3 件	5 件						
					優良排出事業者の認 定件数（単年度）	2件 (H26年 度)	目標	2 件	2 件	2件 (毎年 度)					
							実績	1 件	1 件						
30	③ ⑥ ⑪ ⑫	環境対策事業	環境 監視 課	環境法令に基づき、大気汚染や 水質汚濁、騒音・振動の監視測定 (環境モニタリング)などを行 い、環境質の現状を把握し、維 持・向上に努める。 また、市内企業を対象に、環境 モニタリング結果等を共有し、環 境保全を一層促進するため、環境 モニタリングの結果や環境法令の 概要、また不適正事案の防止策等 に関するセミナーを実施する。	現状の環境を保全	—	目標	—	—	現状の 環境を 保全	32,288	47,947	46,340	順調	大気、水質、騒音、振動についてモニ タリング計画を立てて測定を実施し、現 状の環境の保全につながっていると考え られるため、「順調」と判断。
							実績	—	—						
					企業の法令順守の徹 底	—	目標	改善命令 0件	改善命令 0件	改善命 令 0件 (毎年 度)					
							実績	0 件	0 件						
31	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境施策広報 事業	環境 学習 課	世界の環境首都を目指す北九州 市の環境施策について、環境マス コットキャラクター「ていたん」 を活用した広報・PRを継続して行 い、市民の環境意識向上を図る。	アンケート調査にお ける環境マスコッ トキャラクターの認知 度	52.2% (H27年 度)	目標	65.0 %	65.0 %	65.0% (R5年 度)	9,089	9,590	9,512	順調	令和3年度と比べ、イベント参加回 数、アンケート調査における環境マス コットキャラクターの認知度が、ともに 増加している。また、認知度について目 標率を達成しており、施策に対して、一 定の効果があったものと考えられるた め、「順調」と判断。
							実績	66.5 %	67.7 %						

政策目標1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		R4年度	評価の理由
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	
32	⑫ ⑰	環境国際協力 推進事業	環境 国際 戦略 課	<p>途上国技術者を受け入れる国際研修や経験豊かな市内企業技術者等を諸外国都市に派遣し、現地で相手都市も主体的に関わった実践的な技術指導を実施する。</p> <p>また、国内外の関係機関と協働・連携した調査、情報収集や発信を行うとともに、各種都市間ネットワークを活用したプロジェクトを実施する。更には、市内企業や国際機関等と密に連携して、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指す。</p>	戦略的環境国際協力 事業の件数 (累計)	6件 (H26年 度)	目標 14 件	15 件	15件 (R5年 度)	0	3,000	1,566	順調	<p>新型コロナウイルス感染症による出入国に係る水際対策の緩和により、現地派遣が再開し、オンライン協議と対面協議を活用して事業を進めた結果、「環境国際協力推進事業」の目標件数を達成したため、「順調」と判断。</p>
33	⑧ ⑨	国際会議等 MICE事業の推 進	MICE 推進 課	<p>キーパーソン等へ本市の優位性（アクセス・施設・助成金）をPRするなどの誘致活動を展開することにより、本市での国際会議・大会等のMICE開催を目指す。</p>	MICE開催件数	183件 (H20年 度)	目標 300 件	300 件	300件 (R5年 度)	97,849	156,520	129,524	順調	<p>令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、目標には達しなかったものの、令和3年度と比較してMICEの開催件数は大きく伸びたため、「順調」と判断。</p>
34	⑰	アジア低炭素 化センター推 進事業	環境 国際 戦略 課	<p>アジア低炭素化センターを中核として、環境に関する多様な技術や社会システム等を海外に輸出することで、地域経済の活性化を推進する。</p>	アジア地域でのCO2 排出量を削減	—	目標 単年度目標設 定なし	単年度目標設 定なし	H25年度 の本市 CO2排出 量75% 分削減 (R12年 度)	12,331	24,549	15,152	順調	<p>アジア地域でのCO2排出量の削減に向けた各種プロジェクト推進数の累計が267件と、目標値の235件を上回っており、外部資金を活用しながらアジア地域の脱炭素に資する事業を積極的に展開していることから、「順調」と判断。</p>
							実績 —	—						
							達成率 —	—						

政策目標1 市民環境力の更なる発展とすべての市民の支えられた「北九州環境ブランド」の確立

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		R4年度	評価の理由
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	
35	⑨ ⑫ ⑭ ⑰	アジアにおける廃プラスチック対策プロジェクト推進事業	環境国際戦略課	<p>国連環境計画（UNEP）との連携のもと、東南アジア地域の連携各都市において、廃プラスチック対策プロジェクトを中心に新たな事業発掘に努め、循環型経済（サーキュラーエコノミー）を促進する。また、UNEPや、海外を含めた産学官連携により市内企業のビジネス支援を強化することで、これまで本市が注力してきた都市間連携による支援に厚みを持たせ、環境モデル都市としてのブランド力を向上させる。</p>	対象地域におけるパイロット事業着手数	—	<p>目標 4 件</p> <p>実績 5 件</p> <p>達成率 125.0 %</p>	<p>6 件</p> <p>7 件</p> <p>116.7 %</p>	8件(R5年度)	4,345	11,000	4,848	順調	対象地域において、当初の計画どおり順調にパイロット事業に着手しており、目標を上回っているため、「順調」と判断。
36	⑦ ⑫ ⑭ ⑰	サステナブル環境ビジネス展開事業	環境国際戦略課	<p>「SDGs推進」や「サーキュラーエコノミー推進」に適合する技術や製品を持つ市内中小企業等の海外展開を支援する。これにより、循環型社会及び脱炭素社会の実現に貢献すると同時に、本市の環境ビジネスの「ブランド力の向上」と北九州市SDGs戦略の一つである「技術と経験を活かした国際貢献の推進」を実現する。</p>	海外での実証事業等の進出数（単年度）	5件 (R02年度中小企業アジア環境ビジネス展開支援事業の実績)	<p>目標 2 件</p> <p>実績 2 件</p> <p>達成率 100.0 %</p>	<p>3 件</p> <p>2 件</p> <p>66.7 %</p>	3件(R5年度)	1,606	18,000	7,007	順調	令和4年度は、公募対象期間が海外渡航制限の最中であった影響により、海外事業の開始を控える企業が多かったが、海外での実証事業等の進出数は、一定数に達しているため、「順調」と判断。

政策目標4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					R3年度		R4年度		R4年度 事業 評価	評価の理由
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)			
1	③ ⑪ ⑫	大気汚染常時 監視システム 整備保守事業	環境 監視 課	大気汚染防止法第22条の規定に基づき、大気汚染状況の常時監視を行うため、公害監視センターと市内に設置した常時監視測定局から成る測定網の整備・保守を行う。常時監視結果を本市の環境保全の推進に役立てるとともに、大気環境の現状把握に努める。	大気環境の適正な把握	—	目標	—	—	大気環境の適正な把握	16,978	13,474	13,473	順調	測定装置の更新計画に基づき、適切に測定環境を整備し、正確な測定を継続実施したため、「順調」と判断。
							実績	—	—						
							達成率	—	—						
2	③ ⑥ ⑪ ⑫	環境対策事業	環境 監視 課	環境法令に基づき、大気汚染や水質汚濁、騒音・振動の監視測定(環境モニタリング)などを行い、環境質の現状を把握し、維持・向上に努める。 また、市内企業を対象に、環境モニタリング結果等を共有し、環境保全を一層促進するため、環境モニタリングの結果や環境法令の概要、また不適正事案の防止策等に関するセミナーを実施する。	現状の環境を保全	—	目標	—	—	現状の環境を保全	32,288	47,947	46,340	順調	大気、水質、騒音、振動についてモニタリング計画を立てて測定を実施し、現状の環境の保全につながっていると考えられるため、「順調」と判断。
							実績	—	—						
							達成率	—	—						
				企業	の法令順守の徹底	—	目標	改善命令 0件	改善命令 0件	改善命令 0件 (毎年度)					
							実績	0 件	0 件						
							達成率	—	—						
3	③ ⑥ ⑪ ⑫ ⑭	工場・事業場 監視事業	環境 監視 課	市内の工場・事業場に対し、大気汚染防止法・水質汚濁防止法等に基づいて、立入検査及び排ガス・排水中の規制項目に関する測定を実施し、事業者の環境法令の遵守を監視するとともに、環境管理の取組の促進を図る。また、市民からの公害関係苦情・要望を受け、発生源に対する指導を行う。	公害に関する苦情・ 要望件数 (単年度)	243件 (H26年度)	目標	300件 以下	300件 以下	300件 以下 (毎年度)	24,552	24,688	21,645	大変 順調	公害に関する苦情・要望件数は、目標より大幅に少ないこと、工場・事業場に対する立入検査や行政測定を計画的に実施していること、事業者向けのセミナー開催等により苦情の未然防止を着実に推進していること等から、「大変順調」と判断。
							実績	218 件	222 件						
							達成率	127.3 %	126.0 %						

政策目標4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度		R4年度		R4年度 事業 評価	評価の理由
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)			
4	⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑰	地球温暖化対 策推進事業	グ リ ン 成 長 推 進 課	令和3年8月に改定した「北九州市 地球温暖化対策実行計画」に掲げた 目標の着実な達成に向け、市民、事 業者、行政がこれまで以上に計画的 かつ効果的に取組を推進する必要が あるため、各種調査及び啓発事業の 強化等を行う。	温室効果ガス排出量 の削減（万t）	目標	単年度目標設 定なし	単年度目標設 定なし	2030年 度温室 効果ガ ス排出 量2013 年度比 47%減	9,851	7,846	4,038	順調	温室効果ガス排出量については、毎年 減少傾向を維持している。 また、出前講演の参加者数（累計）が 目標（5,250人）を達成するなど、市民 に対し、年間を通じた啓発事業を実施し た。 以上を総合して、「順調」と判断。	
						実績	—	—							
						達成率	—	—							
5	⑦ ⑧ ⑨ ⑬	脱炭素社会の 実現に向けた ☞再エネ100% 北九州モデル ☞推進事業	再生 可能 エネ ル ギ ー 導 入 推 進 課	脱炭素社会の実現に向けて、 ・公共施設群及びエコタウンの再エ ネ100%電力化 ・EVを活用した自律型エネルギー実 証 ・北九州都市圏域への再エネ普及促 進 ・バイオマスエネルギー等活用推進 ・市有施設のZEB化 に取り組む。	PV・風力等再エネ導 入量（kW・累計）	目標	—	512,980 kW	756,946 kW (R12年 度)	—	1,052,000	14,442	順調	国の交付金を活用した再エネ導入事業 について、半導体不足などの影響もあ り、令和5年度に完工することとなっ たが、設備の導入は進んでいる。また、再 エネの導入量は、目標の8割以上を達成 したため、「順調」と判断。	
						実績	—	451,417 kW							
						達成率	—	88.0 %							
					CO2削減量（+）	目標	—	496,000 t	累計 3,113,7 43tCO2 (R4～ R12年 度)						
						実績	—	349,143 t							
						達成率	—	70.4 %							
6	⑩	橋梁・トンネ ル・モノレ ール等の長寿 命化への計画的 な取り組み	道路 維持 課	市内には、約2,000の橋梁と39本 のトンネル、総延長約9kmのモノ レールがあり、高齢化・老朽化が進 行していることから、予防保全の観 点での長寿命化事業に取り組んでい る。 事業の実施にあたっては、施設毎 に個別施設計画を策定し、5年に1回 の定期点検に基づく計画的な維持管 理を実施することで、市民の安全・ 安心を確保するとともに、トータル コストの縮減や予算の平準化を図 る。 ・「北九州市橋梁長寿命化修繕計 画」 ・「北九州市トンネル長寿命化修繕 計画」 ・「北九州モノレール長寿命化計 画」	主要橋梁及びトンネ ルの健全性向上によ る市民の安全・安心 の確保	目標	—	—	全主要 橋梁及 びトン ネルの 健全性 Ⅱ以上 (R9年 度)	4,233,721	1,965,000	2,496,412	順調	橋梁、トンネルのリニューアル及びモ ノレールの長寿命化に向けた取組は、概 ね計画通りに進捗しており、「順調」と 判断。	
						実績	—	—							
						達成率	—	—							
					インフラ構造物の長 寿命化を実施によ る、モノレールの安全・安心な運行の確 保	目標	—	—	全イン フラ構 造物の 健全性 Ⅱ以上 (R8年 度)						
						実績	—	—							
						達成率	—	—							

政策目標4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度 決算額 （千円）	R4年度		R4年度 事業 評価	評価の理由		
					指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）				
7	①	老朽空き家等 除却促進事業	空き家活 用推 進課	倒壊や部材の落下のおそれがある など危険な空き家等の除却を促進す るため、建築物の除却に要する費用 の一部を補助することにより、市民 の安全で安心な居住環境の形成を図 る。	老朽空き家等除却促 進事業の実施件数	202戸 (H26年 度)	目標 260 戸	実績 339 戸	達成率 130.4 %	290 戸	300戸 (毎年 度)	89,212	100,000	94,698	大変 順調	当事業に対する市民からの関心が高 く、除却戸数が目標を大幅に上回るこ とが出来たため、「大変順調」と判断。
8	①	空き家等活用 推進事業	空き家活 用推 進課	近年増加傾向にある空き家に対 し、市民の安全・安心を確保するた め、空き家等発生のも未然防止から、 流通・活用等の促進に至るまで、 「空家等対策計画」に基づき総合的 な空き家対策を推進する。	空き家に関する相談 件数	—	目標 300 件	実績 404 件	達成率 134.7 %	300 件	300件 (毎年 度)	1,696	1,800	1,614	順調	空き家の予防及び管理・活用等に関 するリーフレット及びチラシの配布、市 内でのセミナー・相談会の複数開催等 を行ったことにより、空き家に関する 普及啓発が図られ、相談件数が目標 を上回ったため、「順調」と判断。
9	①	空き家等面的 対策推進事業	空き家活 用推 進課	個々の空き家のみでは敷地が狭く 進まない再整備を、複数の空き家を 面的にまとめることにより進めるも ので、市が空き家所有者を住宅事業 者につなぎ、建替えやリノベーション を推進する取組を実施する。	建替えやリノーベ ーションによる空き家 の解消、空き家問題 の予防啓発や総合相 談を行うことによる 空き家の解消	—	目標 単年度目標設 定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標設 定なし	—	9,451	16,000	12,111	順調	効率的・効果的に事業を行うため、適 宜、見直しを図ることで、空き家等 の売却に係る成約数を伸ばしており、 空き家解消につながっていることか ら、「順調」と判断。
10	①	老朽空き家等 対策推進事業	空き家活 用推 進課	人口減少や高齢化等が進む本市 においては、今後も、適正に管理さ れず、周辺の居住環境に悪影響を及 ぼす老朽空き家等の増加が続くこと が見込まれることから、平成28年に 制定した「空家等の適切な管理等に 関する条例」及び同年策定した「空 家等対策計画」に基づき、老朽空き 家等対策の強化を図る。	老朽空き家に関する 相談・通報件数	167件 (H26年 度)	目標 500 件	実績 823 件	達成率 164.6 %	500 件	500件 (毎年 度)	7,351	19,161	5,726	大変 順調	効果的な普及活動により、相談・通 報件数が目標を大幅に上回ることが 出来たため、「大変順調」と判断。

政策目標4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度		R4年度		R4年度 事業 評価	評価の理由
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)			
11	③ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪	環境首都総合 交通戦略の推 進	都市 交通 政策 課	<p>環境首都総合交通戦略は、本市での望ましい交通体系を構築するため、既存の公共交通機関を有効活用し、その維持や充実・強化を図る。過度なマイカー利用から地球環境にやさしい公共交通や徒歩・自転車への利用転換を図り、市民の多様な移動手段が確保された交通体系を構築することを目指す。</p>	市内の公共交通人口 カバー率	基準値 80% (H17年 度)	目標 単年度目標設 定なし			計画改 定 (R3年 度末)	73,827	213,423	131,099	順調	<p>令和4年度は、各種イベントへの出店に加え、TNCのうどんMAPとコラボしたイベント「うどんMAP in 北九州市」を開催し、コラボ動画を制作するなど、公共交通利用促進のPR活動を実施することができた。 また、JR門司駅南口駅前広場のバス待機枠を増やすなど、結節機能強化も実施できたため、「順調」と判断。</p>
					市内の公共交通分担 率	基準値 20% (H17年 度)	目標 単年度目標設 定なし			計画改 定 (R3年 度末)					
					自家用車CO2排出量 の削減(H17年度比)	基準値 69.7万 +CO2 (H17年 度)	目標 単年度目標設 定なし			計画改 定 (R3年 度末)					
					市内の公共交通人口 カバー率	基準値 86% (R3年 度)	目標 単年度目標設 定なし	単年度目標設 定なし		86% (R8年 度)					
					人口10万人あたりの 公共交通利用者数	基準値 3.8万人 /10万人 (R1年 度)	目標 単年度目標設 定なし			3.8万人 /10万人 (R8年 度)					
					公共交通に対する満 足度	基準値 66.1% (R2年 度)	目標 単年度目標設 定なし			70% (R8年 度)					
					運輸部門CO ₂ 排出削 減率	基準値 172万+ -CO2 (H25年 度)	目標 単年度目標設 定なし			104万+ CO2 (R12年 度) 40%削減					

政策目標4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度 決算額 （千円）	R4年度		R4年度 事業 評価	評価の理由			
					指標名等	現状値 （基準値）	R3年度		R4年度		中期 目標	予算額 （千円）			決算額 （千円）		
12	③ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑬	環境首都総合 交通戦略の推 進（おでかけ 交通）	都市 交通 政策 課	おでかけ交通事業は、公共交通空 白地域の中で一定の需要がある地域 において、地域住民の交通手段を確 保するため、採算性の確保を前提と して、地域住民、交通事業者、市 の三者がそれぞれの役割分担のもとで 連携して、ジャンボタクシー等を行 運する。	既運行地区における おでかけ交通の維持	8ヶ所 (H25年 度)	目標	8	ヶ 所	8	ヶ 所	10ヶ所 (R5年 度)	73,827	213,423	131,099	順調	三者（地域住民、交通事業者、市）で 逐次調整・協議を行い、安定・安全運行 の確保に努め、運行の維持ができたた め、「順調」と判断。
							実績	9	ヶ 所	9	ヶ 所						
							達成率	112.5	%	112.5	%						
13	⑬	広げよう食品 ロス・生ごみ 削減の環づく り事業	循環 社会 推進 課	食品ロス削減の取組「残しま宣 言」運動の普及・啓発や、生ごみリ サイクル講座等の実施によって、生 ごみの減量化・資源化を推進する。	市民1人一日あたり の家庭ごみ量	468g (R1年 度)	目標	単年度目標設 定なし		単年度目標設 定なし		440g以 下 (R7年 度)	7,047	7,800	6,354	順調	食品ロス削減の取組「残しま宣言」運 動を継続して実施し、食品ロス削減の取 組実施率は、中期目標の概ね8割程度達 成しており、市民の環境意識向上や、生 ごみの資源化・減量化の促進に貢献して いると考えられることから、「順調」と 判断。
							実績	462	g	452	g						
							達成率	—		—							
					市民アンケート調査 における3R活動の実 施率	86.9% (H28年 度)	目標	86.9	%	/		86.9% (毎年 度)					
							実績	85.7	%								
							達成率	98.6	%								
					市民アンケート調査 における食品ロス削 減の取組実施率	58.3% (R1年 度)	目標	/		単年度目標設 定なし		80%以上 (R12年 度)					
							実績			61.6	%						
							達成率			—							

政策目標4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度 決算額 （千円）	R4年度		R4年度 事業 評価	評価の理由
					指標名等	現状値 （基準値）	R3年度		R4年度		中期 目標	予算額 （千円）		
14	③	若者ワークプラザ北九州運営事業	雇用政策課	若年者の就業支援の拠点として「若者ワークプラザ北九州」及び「若者ワークプラザ北九州・黒崎」において、就業相談、セミナー、職業紹介等を実施し、若年者の就業を促進する。	就職決定者数	1,360人 (H30年度)	目標 1,300 人	実績 931 人	78,388	80,410	78,096	1,300人 (毎年度)	順調	カウンセリング利用者数が令和3年度に比べ減少（12,218人→9,900人）したものの、就職決定者数は増加したため、「順調」と判断。
15	③ ④ ⑥	高齢者就業支援センター運営事業	雇用政策課	高齢者就業支援センターを拠点として、高齢者に対し就業支援を実施する。また、就業に関連するセミナーを実施する。	中高年齢者の就職者数	768人 (H30年度)	目標 700 人	実績 837 人	32,538	32,984	32,501	3,500人 (R2～R6年度)	大変順調	延べ利用者数が令和3年度に比べ減少（9,792人→8,644人）したものの、シニア・ハローワーク戸畑等、関係機関との円滑な連携の結果、中高年齢者の就職者数は令和3年度及び目標を大きく上回ったため、「大変順調」と判断。
16	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	脱炭素サプライチェーン支援事業	環境イノベーション支援課	市内企業に対し、脱炭素経営を促すため、実際の成功事例の紹介などを行うセミナーを実施する。また、市内企業の環境に配慮した製品や技術、サービスから「北九州エコプレミアム」を選定し、広くPRすることで、市内環境関連産業の活性化を推進する。	北九州エコプレミアム選定件数（単年度）	9件 累計190件 (H26年度)	目標 5 件	実績 4 件	—	9,654	8,204	累計240件 (R6年度)	順調	北九州エコプレミアムについて、単年度としては目標を下回っているものの、中期目標の累計240件に向かって、選定件数は着実に増加している。 また、エコタウン事業の投資額については目標を上回る予定である。 以上から、事業全体を総合的に勘案し、「順調」と判断。
エコタウン事業による投資額（単年度）	9億円 (H26年度)	目標 7 億円	実績 12 億円	7億円 (毎年度)										
		目標 達成率	171.4 %											

政策目標4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		R4年度 事業 評価	評価の理由			
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)			予算額 (千円)	決算額 (千円)	
17	⑫	農作物生産振 興対策事業	農林 課	農業者が農業に関する正しい知識 を理解した上で、適正に使用し、安 全な農産物を生産する状態にする。	農作物の安全・安心 確保（GAP〔農業生 産工程管理〕）に取り 組む生産組織の割 合）	12% (H27年 度)	目 標	60	%	60	%	60% (R5年 度)	732	1,101	323	順調	GAPに取り組む生産組織の達成率が 86%であるため、「順調」と判断。
						実 績	51.6	%	51.6	%							
						達 成 率	86.0	%	86.0	%							
18	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	環境未来技術 開発助成事業	環境 イノ ベー ション 支 援課	新規性、独自性に優れた環境技術 の研究開発費の一部助成により、中 小企業をはじめとした地元企業等に 技術開発の機会を提供するととも に、本市における環境分野の技術の 集積を促す。	本助成事業で助成し た研究開発の事業化 数（累計）	27件 (H26年 度)	目 標	38	件	39	件	40件 (R5年度 まで)	18,315	50,000	38,310	順調	令和4年度までの助成件数（累計）の うち、事業化した件数は令和3年度と同 程度になる予定。 また、採択状況についても、着実に件 数を伸ばしていることから、「順調」と 判断。
						実 績	40	件	41	件							
						達 成 率	105.3	%	105.1	%							
19	⑩	アジア低炭素 化センター推 進事業	環境 国際 戦略 課	アジア低炭素化センターを中核と して、環境に関する多様な技術や社 会システム等を海外に輸出すること で、地域経済の活性化を推進する。	アジア地域でのCO2 排出量を削減	—	目 標	単年度目標設 定なし		単年度目標設 定なし		H25年度 の本市 CO2排出 量75% 分削減 (R12年 度)	12,331	24,549	15,152	順調	アジア地域でのCO2排出量の削減に向 けた各種プロジェクト推進数の累計が 267件と、目標値の235件を上回って おり、外部資金を活用しながらアジア地 域の脱炭素に資する事業を積極的に展 開していることから、「順調」と判断。
						実 績	—		—								
						達 成 率	—		—								

政策目標4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上

No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		R4年度 事業 評価	評価の理由	
					指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)			予算額 (千円)
20	① ③ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑰	海外水ビジネスの推進	海外 事業 課	<p>上下水道分野などの海外水ビジネスは、今後も人口増加や都市化の進展により市場の拡大が見込まれ、国の成長戦略においても、水分野等のインフラシステム輸出を推進するとされている。本市では、平成22年に「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を設立。官民が有する技術力やノウハウを結集し、計画づくりから設計、建設、維持管理、事業運営まで、地場企業による水ビジネス案件の受注を目指して事業を展開。併せて「ウォータープラザ北九州」を活用し、水ビジネスに向けた取組を進める。</p>	市が関与するビジネス案件数	—	目標	6 件	6 件	海外水 ビジネスを通じた地元企業の振興と国際貢献	49,131	114,075	82,717	大変 順調	<p>現在カンボジアやベトナムを中心に進めている国際技術協力を通して築いた信頼関係を土台に、官民一体となり、海外水ビジネス案件や北九州市海外水ビジネス推進協議会会員企業への受注に繋がっている。</p> <p>実績として、令和4年度はカンボジアでビジネス案件を12件受注したため、「大変順調」と判断。</p>
実績	6 件	12 件													
達成率	100.0 %	200.0 %													